

32. Malignant fibrous histiocytoma (MFH) の1手術例

森 典子, 伊藤浩子, 木村敬二郎
明星志貴夫 (川鉄)
大岩 孝司, 沖田伸也, 鎗田 努
(鎗田病院)
君塚 五郎 (千大・看護学部)

59歳, 男性。咳嗽, 微熱にて受診。胸部X線上, 胸膜の腫瘍状陰影と, 血液検査上, 血沈の亢進・CRP の強陽性が認められた。経皮肺生検にて MFH を疑い, 手術療法を行った。胸膜原発の MFH と思われた。

33. 排尿障害を発症した Primitive Neuroectodermal Tumor (PNET) の1症例

溝尾 朗 (東京厚生年金)

症例は21歳, 男性。平成4年4月排尿困難出現。6月臍左上部の皮下結節と自覚し皮膚科受診。生検の結果, PNET の診断を得た。画像上, 骨盤内を原発とし皮膚・胸膜・後腹膜リンパ節・表在リンパ節への転移, 下肢軟部組織への浸潤と診断されたため, 化学療法目的にて当科入院。Rosen T-9 プロトコールにしたがい2クール施行し完全寛解となった。本症例は骨盤内原発であるが, 胸壁腫瘍の1つとしての PNET を知り, 報告した。

34. 当院における肺癌症例の統計

斉藤陽久, 大西基喜, 諸橋芳夫
(旭中央・内科)
関 保雄 (同・外科)

8年間の原発性肺癌 537 例。①毎年60例以上で, 昨年は82例。②年齢は60, 70代で7割。男女比2.5:1。③組織型は Ad: Sq: Sm: La: 他で54:24:14:3:5。④病期は3+4期で74%。⑤手術は平均年20で率は29%。⑥病期予後は1+2期で5生率77%, 3+4期では50%生存期間が9ヵ月と不良。

35. アミラーゼ産生肺癌の1例

山田嘉仁, 山本 司
(国立千葉・内科)
高澤 博 (同・病理)

症例は67歳の女性。労作時呼吸困難を主訴とし, 胸部X線上, 右側胸水貯留および右肺に腫瘍像を認め, TB-LB にて乳頭状腺癌と診断された。血中, 胸水中アミラーゼは高値を呈し唾液腺型優位の特異なアイソザイムパ

ターンを認め, 酵素抗体法により癌細胞内にアミラーゼの局在を証明し得, アミラーゼ産生肺癌であることが示唆された。

36. 肺炎様陰影を呈した肺腺癌の1切除例

安福和弘, 飯笹俊彦, 鈴木洋人
馬場雅行 (千大・肺外)

発熱, WBC 増多, CRP 上昇など炎症症状を有し, 胸部X線写真上, 透亮像を伴う肺炎様陰影を呈した細気管支肺胞上皮癌の1切除例を経験した。透亮像の主体は肺囊胞で, 胸部打撲を契機に肺炎をきたしたものと考えられた。また囊胞内腔は過形成上皮に覆われており, この上皮細胞より細胞所見の判定が困難であった。

37. 速中性子線による肺腺癌の抗腫瘍効果の検討

安川朋久, 高村 大, 宮本忠昭
(放医研・病院部)

速中性子線単独で治療した肺腺癌症例に対し経時的に経気管支鏡肺生検を施行し病理学的な検討を行った。症例は男性13例, 女性5例, 臨床病期はI期6例, II期1例, IIIa期5例, IIIb期4例, IV期2例であった。病理学的な変化は治療終了後も3~6ヵ月間進行し, 治療効果の判定はそれ以降に行う必要があると考えられた。

38. SIADH を伴った肺小細胞癌に対する CODE 療法の経験

関根郁夫 (国立がんセンター東)

SIADH を伴う肺小細胞癌2症例に対し CDDE 療法を施行したところ, 低 Na 血症の悪化もなく順調な経過を示した。CODE 療法の利点として, 高い奏効率を示す, 1回の輸液量を少なくできる, 抗癌剤が1週ごとに分割投与されるために急激な Tumor-lysis に伴う ADH の放出亢進が起こりにくい, などが考えられた。

39. サイコオンコロジー研修報告 スローンケタリングがんセンター (MSKCC) から学んだもの

澤田勤也 (千葉がんセンター)

1992年7月 MSKCC で癌患者の精神的ケアの研修を受けた。多くの臓器癌, 小児癌, 骨髄移植は主治医を中心に精神科医, ナース, ケースワーカー, ボランティア活動が極めて盛んで有効に機能し憲章に基づく人権も守られている。また MSKCC の協力で通院治療小児癌のため安価な宿泊が準備されていた。夏は小児癌のためのキャンプが運営されていた。わが国の癌医学, 医療に大きな示唆を与えるものである。